

就職を目指し、ともに学ぶ場所 —委託訓練も同じ校舎で—



横浜市中央職業訓練校

設置・運営●横浜市

所在地●神奈川県横浜市中区山下町253
(横浜市職能開発総合センター内)

訓練科目と期間●パソコン基礎科(2カ月)、OA経理科(3カ月)、
介護・医療事務OA科(3カ月)、CAD製図科(6カ月)、IT・Webプ
ログラミング科(3カ月)、ITビジネス科(3カ月)、介護総合科(3カ月)、
医療・調剤事務OA科(3カ月)



横浜中華街や横浜港、山下公園など
にほど近い場所に位置する横浜市中央
職業訓練校は、公共職業訓練を実施す
る全国で唯一の市立の職業能力開発施
設であり、職業訓練法が制定された昭
和33(1958)年に開設以来、50年
以上の歴史をもつ。

開設当時横浜では、戦後連合国軍に
接収された多くの施設が返還され、新
たな就労支援、技能職などの職業訓練
の機会が求められた背景があったとい
う。

現在はOA、IT系が中心。CAD
製図科が直営で、その他の科は委託訓
練である。各科定員は20〜30人、8割
以上が女性で、平均年齢は30代後半。
平成25年度の就職率は77.6%(中退
就職者含む)となっている。

直営・委託訓練の全科を一つの校舎で

高崎基雄校長は、同校の特徴につい
て「委託訓練だと普通はそれぞれの受
託機関の建物で訓練を実施されます
が、本校はこの校舎で行っています。
ですから、委託訓練であってもわれわ
れが目が届くんです」と話す。入校時
の面接に立ち会って各委託先の合否基
準を確認したり、訓練期間中に提出さ
れる日誌によって、訓練がどのよう
に進んでいるか、訓練生たちがどのよ
うな気持ちで訓練を受けているか、日々
把握したりできる。訓練生にとっても、
全科がこの校舎に集まっているため、
学校に来ているような「特別な数カ月」
の感覚をもてるとはならないかという。

25年度の応募倍率は全科計で1.93
倍。入校選考では、能力などよりも、
①就職意欲、②訓練内容が本人の希望
と合っているか、③他の人たちがとうま
く協調してやっていけるか、という観
点がポイントとなる。

また、各科ひとり親家庭の親及び生
活保護受給者の優先枠が設けられてい
る。市内区役所の子ども家庭支援課、
保護課と連携できることもメリット。
母子家庭の母は、働きにくい環境の人
も多く、就職に臨む基礎知識を学ぶ5
日間の準備講習が、本訓練の前に行わ
れている。

就職支援

委託科目での就職支援は委託先に任
されているが、就職活動の心構え、応
募書類の書き方、面接の受け方など、
実践的な就職活動のノウハウをカリ
キュラムの中で指導するほか、各科に
配置されたキャリア・コンサルタント
のスタッフが常駐し、訓練生の相談に
応じている。就職支援は修了後3カ月
間フォローされる。

直営しているCAD製図科では、修
了前の段階で各訓練生をアピールした
プロフィール(個人名の記載はない)
を企業160社ほどに送付している。
それを見ての引き合いもかなり来ると
いう。

ともに学ぶことでお互いに支え合う場

「訓練がうまくできるかどうかは、
クラスの訓練生みんなが仲良くいい雰

囲気になっているかが重要ですので、
各委託先の方々には、その点をしっか
りやっていただくようお願いしてい
ます。就職にも一緒に勉強した仲間が
お互い勇気づけ合い、励まし合ってい
くことが力になりますし、企業も協調
性のある人材を求めていますから」(高
崎校長)

修了式で訓練生からよく言われるの
は、「周りの人に勇気づけられ、支え
られることが自分の成長にすごく意味
があった」ということ。例えば、離婚
して一人で就職を目指す中で「居場所
がない」と感じていた女性が、ここで
クラスメートとともに励まし合いなが
ら学んでいくことで、前向きな気持ち
になれた、ということもよくある。

「入校したての頃の日誌には『理解
できない、ついていけないのか』といっ
た不安な言葉が多いですが、やがて専
門用語で日々の進展が語られるよう
になり、修了式の頃はみんな自信にあふ
れた笑顔に見えます」(木村剛副校長)
「就職するという明確な目的がある
ので、わかつたふりをして意味があ
りません。やるもやらないも自分のた
め、自分の責任ですから、目の色が違
います」(高崎校長)

事務系の求人倍率は依然として厳し
い情勢ではあるが、訓練生たちにとっ
て、同じ課題をもつ人たちと、同じ目
標に向かい、同じ場所で学ぶことで得
るものは大きいと言えるだろう。